



▲斜向道(住吉街道)で検出された木橋(右)と
埴輪・土師器壺・須恵器坏(左)(新堂2丁目)
松原市教育委員会提供

▲中高野街道・住吉街道 分岐道標(新堂3丁目) 天保5年(1834)
▲中高野街道・竹内街道 茶屋筋道標(岡5丁目) 寛政9年(1797)
▲中高野街道・竹内街道 分岐道標(岡4丁目) 寛政9年(1797)

丹南来迎寺・岡・新堂・反正山
阿保茶屋・一里山・三宅への道

平安時代以降、京・大坂から平野(大阪市平野区)を経て、松原市域を
通って紀州(和歌山県)の高野山に至
るルートとして中高野街道が利用さ
れました。とくに江戸時代以降、街
道の往来が頻繁になり、いつごろか
らか街道が通る村名をおりこんだ、
いわゆる「中高野街道わらべ歌」が広
まるようになりました。同じような
わらべ歌が、市域を横ぎる竹内街道
や長尾街道の村々でも歌われていま
した(「歴史ウォーク」25)。
わらべ歌は、南の大阪狭山市から
北上し、平野の奈良街道と交わる所
まで、次のように歌っています。

日本一の狭山池(大阪狭山市)

南にあるのに東野で(堺東区南生くつめやま同区東野)
すこい黒姫山に登ったら(同区黒山)
大分つかれましたが(同区大塚)
真福寺か丹南の来迎寺でひと休み(同区盛徳)
つぎは岡なの しんどいな(松原市新堂)
反正山すげれば うれしいな(松原市上田)
阿保茶屋でいっぶくさ(松原市三宅・阿保)
一里山の三宅を通れば瓜わつと(松原市三宅・阿保)
きれいな平野の奈良街道(同区盛徳)

高野山に参詣した旅人が、狭山池
まで来て、東野や菅生の村から黒山
にある五世紀中期の前方後円墳とさ

れる黒姫山古墳に登ったので、大保
あたりでかなり疲れたようです。そ
こで、すぐ北の真福寺や丹南の融通
念佛宗・来迎寺で休憩をとりました。
岡に入ると、竹内街道とぶつかる岡
四丁目には伊勢講による寛政九年(一七
九七)五月の道標が建っています。竹
内街道と重なって西に行った現松原
南コミュニティセンター前の茶屋筋
にも、伊勢講が建てた同年同月の道標
が見られます(「歴史ウォーク」139)。

丹南から府道中央環状線を越えて
河内松原駅に至る今の近鉄バス道は、
大正時代後半につくられた新道で
す。旧道は、丹南四丁目の大正五
年(一九一六)建立の松川長右衛門
碑(「歴史ウォーク」89)前から東側
を北に向かい、竹内街道分岐道標に
至っていました。茶屋筋道標からは、
北の松原南小学校西側の信用金庫前
を左折して、府営岡住宅や岡町交番
横を通って新堂に入りました。旅人
は新堂の地名から「しんどいな」と
言っています。新堂三丁目の融通念
佛宗の浄光寺前を行くと、新堂公民
館に曲がる道に至ります。ここは、
住吉大社(大阪市住吉区)方面に行く
バイパス的な住吉街道との分岐点で
した。天保五年(一八三四)正月、釋
道心が建てた道標が見られます。
住吉街道は、古くから開けていた
ようで、その前身とも言えるいわゆ
る斜向道の遺構や遺物が新堂公民館

北西側で発掘されています。とくに
六世紀後半ごろ、この古道で当時流
れていた川に架かっていた木橋が検
出されました。基礎板として幅四十
cm、厚さ十cmを二重にして敷き、そ
の上に直径四十cm、長さ五mの丸太を
横に並べて橋脚とし、歩行部分の敷板
は幅一m、厚さ十五cmの板材を二重に
重ねていました。全体的には十mを越
える橋の幅があったと思われ、官道的
な重要ルートと想定されています。

中高野街道はそのまま北へ、生野
高校や松原小学校前に続いていま
す。松原小学校はもともと下の池を
埋め立てて河内松原駅から移転し
てきましたが、土堤沿いの急な坂を
下ると反正山の集落に入ります。反
正山は上田村の分村で、今の上田五
丁目が中心地です。反正山実行組合
(水利組合)の名称が現在も生き続け
ています。松原中学校や松原変電所
を左手に見て、府道堺大和高田線を
越えて、河内松原駅西の踏切を渡る
と長尾街道と交わる阿保茶屋に着き
ます(「歴史ウォーク」215)。茶屋など
が立ち並んでいたの、休憩してひ
といきつきました。

ここからは、今の道を北に向かい
平野まで一里(四キロ)の三宅・阿保
村境の一里山(「歴史ウォーク」243)を
過ぎ、瓜破・喜連・平野に至ったの
でした。えのきを植えた築山の一里
塚が目印となっていたのです。